

アート散歩 小さな家をめぐる旅

2014年5月31日 川口市・さいたま市・行田市



あなたと
どこでも
アート
小さな家
プロジェクト

ごあいさつ

この事業は、入間市博物館、うらわ美術館、川越市立美術館、川口市立アートギャラリー、埼玉県立近代美術館の公立ミュージアム5館がゆるやかに連携し、文化庁の支援を得て実行委員会制で実施するものです。「あなたと どこでも アート 実行委員会」という名前からもうかがえるように、これまでも美術館内でのプログラムにとどまらず、公園や商店街、文化財建築から廃工場、まちなかのアトスポットまで、さまざまな場所でアートの新たな楽しみ方を提案してきました。

この事業の企画・運営を担っているのはSMF (Saitama Muse Forum)の方がたです。埼玉県立近代美術館のミッションに共鳴し、美術、音楽、舞踊、建築、文学など、さまざまな分野で活動する方がたが集い、「身近な場所でアートを享受し、支援し、再創造するプラットフォームをめざします」を旗印に、各ミュージアムのスタッフとともにこの事業を支えています。「衣・食・住」など暮らしに身近な視点でアートを捉え直そうという着想から、今年度は「住む」に焦点を当て、「小さな家プロジェクト」と題して埼玉県内各地で20を超えるさまざまな事業を展開しました。

黒川紀章の中銀カプセルタワーのカプセル・モデル、詩人立原道造の夢の週末別荘・ヒアシンスハウス、巨匠ル・コルビュジェの終の棲家となったカップ・マルタン休暇小屋の精密な復元など、県内にはきわめてユニークで貴重な「小さな家」があります。こうした「小さな家」をめぐるアート散歩が今年度のオープニングとなりました。

埼玉県立近代美術館の企画展「戦後日本住宅伝説」と時期をあわせて開催した「旅する小さな

家」コンペには全国から200点を超える応募があり、公開審査は立ち見の大盛況でした。さまざまな制約をクリアして実際に制作された最優秀作品を秋の別所沼公園でお披露目し、来場されたみなさんに内とも外ともつかない不思議な空間を体験していただきました。美術、建築、音楽、ダンスなどジャンルを超えて「小さな家」を自由に解釈して展開する多彩なアートプログラムが、連携ミュージアムを中心に県内各地で開催され、さまざまな世代の方にお楽しみいただきました。

インターネット上にアートのプラットフォームとなる集合住宅「アート長屋」を構築しようという企画も始動しています。また今年度の「住む」に続いて「着る」、「食べる」など、次年度以降の展開を準備するプログラムも実施しました。

これまでの事業を通じてたくさんのお会いと交流が生まれ、その周辺でさまざまな協働がはじまっています。ミュージアムをキーステーションとしながらミュージアムに限定されない活動や、さまざまなジャンルを超えた協働がSMFを母胎として生まれています。それらを機動的に繋ぎ、どのように組織化して美術館と地域連携の新たなモデルを構築するかが今後の課題といえましょう。

この事業の趣旨を理解し貴重な機会を提供してくださった文化庁をはじめ、惜しみないご協力をいただきました各ミュージアム、大学、団体各位、多くのみなさま方に、心から感謝申し上げます。

平成27年3月

「あなたと どこでも アート」実行委員会
委員長 建畠 哲

「ここのところ、さいたま市・埼玉県では、ちょっとした小屋ブーム。いくつかの興味深い小さな建築が、新たに造られたり、もともとあったものが改修されて公開がはじまったり、別の場所から移ってきたりなど、それぞれの事情はまったくことなるものの、注目を集めています。それらを、一日で連続して体験することで、小さな建築のもつ魅力について考えてみませんか。」

以上がこのアート散歩のチラシの案内文ですが、それに導かれて老若男女が川口駅に集合しました。中型バスに乗りこんで、まずは**原田紀子さん**の家庭菜園の農場に建つ「茅葺き小屋」(川口市)へ。作業着姿で出迎えた原田さんは、小屋の建設にかかわる経緯を熱く語ってくださいました。三畳の土間に四畳半の板の間という小規模の建物ですが、自然素材と伝統工法へのこだわりが伝わってきました。

次に、「旧高野家離座敷」(さいたま市緑区のさいたま市立浦和くらしの博物館民家園分館)へ。幕末の蘭方医で教養人の高野隆仙が建てた書斎です。逃亡中の師・高野長英をかくまったとされていますが、諸説あります。ただ、当時の主要道だった赤山街道に向かって建っていて、情報ステーション的役割をもっていたようです。縁側がL字型になっていますが、三畳+四畳半という規模は原田さんの小屋と同じです。

その次に訪ねた「ヒアシンスハウス」(さいたま市南区の別所沼公園)は、SMFの活動のルーツにもあたる場所です。詩人で建築家の立原道造の夢を、60余年の時を経て市民の力で実現させた思索の空間。ベッドも造りつけられているので、立原が構想した個人的空間を具体的にイメージすることができました。

そして、SMFの本拠地、埼玉県立近代美術館のある北浦和公



農場に建つ茅葺き小屋



旧高野家離座敷



ヒアシンスハウス



中銀カプセルタワー



Tree House



カップマルタンの休暇小屋

茶室は名のある茶碗同様、手に渡りながら旅することができたのです。草庵茶室は決して普段着の住まいではありませんが小屋の範疇、日常を超えた生活文化の到達点です。だから小屋は住まいの出発点でありながら到達点にもなるのです。

では「小屋」と「小さい家」はどう違うのか？

資材が乏しい戦後、多くのモダニストたちが小住宅をテーマに魅力的な作品を創りました。したがって「小さい家」にはモダニズムの薫りを感じますが、モダニズムには出来上がりがかたという古典的な性格があるので、その魅力は番茶も出花の若い色気に留まります。対して年月の中で熟成された「小屋」には、どこかエロティックで悩ましい響きを憶えるものではないでしょうか。

三浦清史 (SMF運営委員)

「小さな家プロジェクト」 解説パネル製作

「小さな家プロジェクト」の解説パネル(A2サイズ、4枚)を制作し、埼玉県立近代美術館や連携館などに展示しました。全体の解説はSMF代表の三浦清史氏、ヒアシンスハウスは建築家の津村泰範氏、中銀カプセルタワーはSMFの青山恭之氏、カップマルタンの休暇小屋の原寸レプリカはものづくり大学の八代克彦氏にご執筆いただきました。



目次	
ごあいさつ	1
アート散歩 小さな家をめぐる旅	2
アート寺小屋 vol.2 小さな家の大きなひろがり	3
ワークショップ 住みつくってなに? 一名作住宅に寄生する試み	4
旅する小さな家プロジェクト アート空間デザインコンペ	5-6
創作ダンス「旅する小さな家」―思惟の庭―	7
ワークショップ 小さいお家をつくろう	8
家を聴く―音で写真集をつくろう―	9
美術の模擬授業 親子でつくろう! びじゅつのじかん	10
アート日和@北浦和 ダンス、きたうらワン、土器づくりワークショップ...	11
アート日和@行田 行田もいよいよアート日和	12

ワークショップ 自分だけの小屋をつくってみよう	13
多世代交流ワークショップ ハートハウスをつくろう!	14
方丈庵で楽しむ双子織と創作ダンスの出会い	15
糸のみち―染・織・リサーチプログラム	
羽生アート散歩、越生アート散歩	16
川越アート散歩	17
川口アート散歩 川口染織業の記憶をたどる「糸のみち」	18
アート寺小屋 vol.1 あなたも今日からアーティスト	19
SMF アート長屋 www.artnagaya.jp の立ち上げ	20
アート寺小屋 vol.3 食と現代アートの融合がもたらすコト	21
アートのまつり	22
委員名簿、連携協力機関・団体、協力者名簿、主な報道記事等	23